

評価結果概要表

【評価実施概要】 作成日 平成21年2月19日

事業所番号	2775502814	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法人名	医療生協 かわち野生活協同組合	所在地	大阪市東住吉区山坂5丁目5番14-103号
事業所名	グループホーム よおぎ	評価調査日	平成 21 年 2 月 14 日
所在地	八尾市八尾木6丁目-100番地 電話 072-925-8730	評価確定日	平成 21 年 2 月 24 日

【情報提供票より】 (平成21年1月20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数	18 人
職員数	21 常勤 4 人	非常勤 17 人	常勤換算 13.1

(2) 建物概要

建物の構造	鉄筋造 3階 3階建ての(3階部分)
-------	-----------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	50,000円	その他の経費 (月額)	15,000円	
敷金	無 ()			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 300,000円	料金延滞時補填し残額返却	償却 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり 45,000円			

(4) 利用者の概要 (1月20日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	8名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢 平均	83才	最低	63才	最高	94才

協力医療機関名	八尾クリニック
---------	---------

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

ホームは開設以来3年目を迎えるが、介護に当たっている職員の半数の10名が、開設年度から継続して勤務しているため、利用者は日々の安定した介護を受け、暖かい見守りのうちに過ごしている。ホームの建物は鉄筋3階建ての3階で、見晴らしが良く、共用室は明るい雰囲気となっている。又、日常の保健については、医療法人の系列クリニックの医師、看護師によって24時間守られている

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	生活協同組合なので、地域の組合員により支えられているが、職員と市役所、民生委員等との交流によって地域の方々との改善も進められつつある。職員の研修については、市役所主催の研修会、医療生協の連合組織……民医連……による共同研修会(学習会)等に参加し、レベル・アップを図っている
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者が長期療養中のため、代理者が中心となって作成し、職員との協議を重ねた上、改善計画も含めて作成している
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み(関連項目: 外部4、5、6)
	運営推進会議は定期的開催され、ご家族代表には必ず出席して頂いている。討議内容は、主として、ホームの行事を含めた報告と、日常生活についての質疑応答で、ご家族からは活発なご意見や、要望等を頂いている
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7、8)
	ご家族の意見、要望や提案等は運営推進会議で頂いているが、連絡事項は、毎月のホーム便りや、文書、電話連絡などでしている。又、要望事項等については管理者が対応にあたっている
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地元の生協の組合員の協力や、1階のクリニック受診の一般の方々との交流、援助もあり、地域での連携は少しずつ進められている

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を掲げている 1・誰もが自分らしい生き方を 2・いのちと人権を尊重する介護 3・安全・安心の質の高い介護 4・介護を受ける権利を守り発展させる運動		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に「理念」の意義を研修して実施し、月例の会議の席上で、理念の実践について報告している		
2 地域との支えあい					
	3	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	運営推進会議に地域の役員のご出席を頂き、交流は少しずつであるが進んでいる	○	地域の方々との人間関係を自然体で更に、積み重ねて欲しい
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価時の改善提案を含めて引き続き、職員間での反省と検討をしている		
	5	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。前回の評価、行事報告等も含め、情報交流が行われている。		
	6	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	八尾市の高齢介護プロジェクト・チームと連絡を取り、サービス向上に取り組んでいる		
4 理念を実践するための体制					
	7	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書にホーム便りを同封しており、個人ごとの報告や相談ごとは、その都度、電話でしている。		
	8	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族代表に出席して頂き、協議をしている。又、来訪時のご質問や提案には、管理者が対応している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来3年目を迎えるが、職員21名中、10名が開設年からの勤続で、新入職者による利用者に対する不慣れなダメージは、最小限になるよう配慮している		

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会議で、研修会等の出席者による外部研修報告も実施している。その上、法人組織の研修会もあり受講の機会は多い。	○	職員別の研修計画により、全体的なレベルアップを進めて欲しい
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	八尾市主催のグループホーム分科会があり、その会合で、相互の見学会、情報交換会が開かれ、質の向上に取り組んでいる。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や、ご家族とともに、出来るだけ話し合い、来訪もして頂き、納得して利用してもらうように工夫している		
--	-------	--	--	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を、人生の先輩として教えて頂くことも含めて、関係を深めるよう努めている	○	利用者一人ひとりと親しい関係となり、聞き取りと発見を、日常的に追加して記録に繋げ、又、言いにくい真実の発言をして頂けるよう努めて欲しい
--	-------	---	---	---	---

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとじっくり話し合うよう努めている		
--	-------	---	-----------------------	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、クリニックの婦長にも出席してもらって、一人ひとりの計画検討を実施している	○	利用者の記録の、チームとしての進め方を、原点に戻って見直しを図り、レベル・アップが進められるように、検討を進めて欲しい
--	-------	--	---	---	---

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者に変化を認めた場合には、関係職員、医師との協議を行い、介護計画の変更をしている		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人組織の各事業所とも連携し、利用者の要望に、適宜に応じている		
----	----	---	---------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	本人及びご家族の要望に応じて、法人内の各事業所での受診等の支援をしている		
19	47	○ 重度化や終末に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所契約の際に本人、ご家族と話し合いの上で了承してもらい、掛かり付け医師とも話し合い、方針を決めている	○	ホームの方針として、医療機関への移送となっているが、チームとして終末期、看取りの学習は重ねておいて欲しい

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者への話しかけには、職員に尊敬と尊重の配慮で行うよう指導している、記録の取り扱いについては管理に配慮している		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの標準はあるが、出来るだけ本人の希望に応じて支援している		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、片付けは出来る方に手伝ってもらっている。月2回、希望に応じた昼の食事と、おやつ作りを、月水金の夕食の汁物作りを行っている		
----	----	---	---	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		2日に1回の入浴として、適宜、希望に対応している

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		一人ひとりの希望に合わせて、対応をしている
	25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している		日常は近所の公園への散歩をし、買物については、時間を定めて支援している

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		外部の出入りはエレベーターに限られているので、ブザーによって職員が対処している
	27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		年2回の避難訓練を行っている、運営推進会議の席上で、緊急時の地域の協力を要請している

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		食事は栄養士のメニューを頂いている、摂取量については個人毎に記録している
--	----	----	--	--	--------------------------------------

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		清掃は毎日実施し、共用室付近の壁面には、季節感のある利用者の手作りの作品を掲示している
	30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		本人の好みの家具類が持ち込まれており、個人的な写真や手芸品等を飾っている